

尾瀬戸倉山林でのブナ植林ボランティアの概要

1. 植林ボランティアの経緯

尾瀬戸倉山林は、利根川水系片品川の最上流部に位置し、当社の下流水力発電所の貴重な水源であるとともに、首都圏の水需要をも賄う「緑のダム」です。

戦後復興期、首都圏の木材需要に対応するため多くの木が伐り出され、跡地には生長の早いカラマツが植えられました。

当社は水源涵養林としてこの森を大切に保育してきましたが、カラマツ人工林の中に生長のよくない箇所があるとの調査結果を受け、そうした場所については、少しずつ本来この森に多くあったブナに植え替えていくこととしました。その植え替え作業にあたり、ボランティアの方々のご協力をいただくこととしたものです。

大正5年、11年 当社の前身である当時の電力会社（利根発電株式会社、関東水電株式会社）が水力発電を目的に尾瀬の土地と水利権を取得。

昭和26年～ 当社設立に際し、尾瀬（尾瀬、尾瀬戸倉山林）の土地と水利権を継承。尾瀬戸倉山林は元来非常に豊かな広葉樹林であったが、戦後復興期の首都圏における木材需要に対応し、多くの木が伐り出され、針葉樹に植え替えられた。

昭和30年代後半～ 水源涵養林として保育管理してきた。

2. これまでのボランティア実施状況

(1) 実施回数：計9回（平成9年より毎年実施）

(2) 延べ参加者数：約3,700名

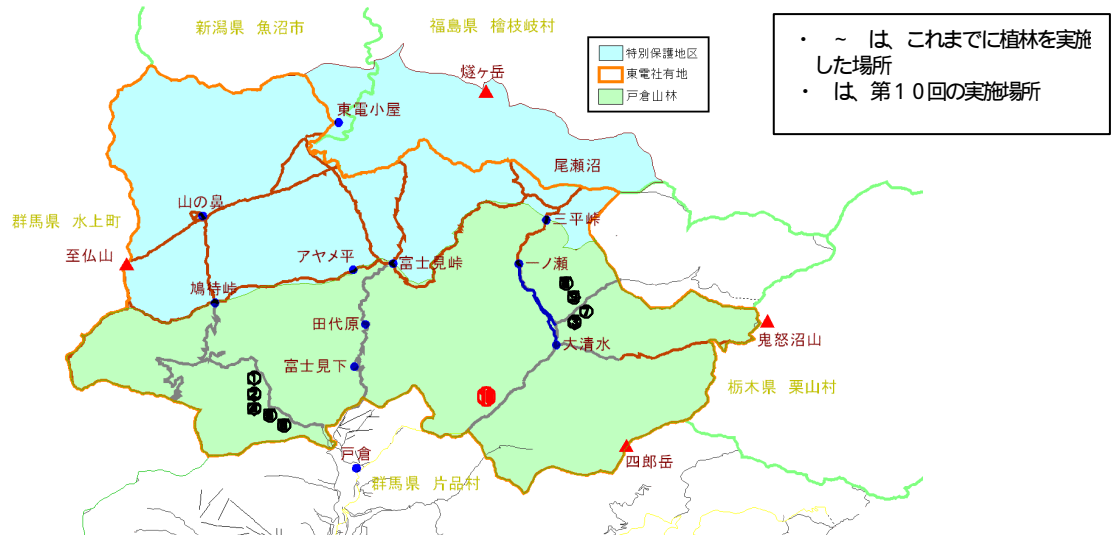
地元の群馬県立尾瀬高校自然環境科の生徒さん、森林保全NGOのメンバー、当社社員などのほか、参加者の一般公募を行っており、毎年多数の応募をいただいております。

(3) 総植林本数：約22,500本（約2,500本/回）

(4) 総植林面積：約4.5ha（約0.5ha/回）

(5) 作業内容：地ごしらえ（笹や小木等の整理、植え付け穴掘り）およびブナ苗の植え付け

(参考) これまで植林を実施した場所



3. 第10回ボランティアの概要

(1) 日 程：平成18年5月24日(水)～26日(金)

(2) 参加者数：約270名(3日間計)

ボランティアにご応募いただいた190名*の皆さまに加え、尾瀬高校の生徒さん30名、団体参加30名、当社社員20名が参加予定です。

*ボランティアには、190名の募集に対し1,243名の方のご応募をいただきました(平均倍率6.5倍)。抽選の結果、首都圏を中心に青森、秋田、大阪、愛媛など全国から多くのボランティアの方々にご参加いただくこととなりました。

(3) 植林本数：2,500本

(4) 植林面積：0.5ha

(5) その他：第1回植林地に周回遊歩道を敷設しました。一部は展望台となっており、植林後10年経ち生長したブナの苗木の生長点を間近でご覧いただけます。



植林の様子

以上